

京都・保津川における 河川ごみ削減に向けた取り組み

大阪商業大学公共学部
特定非営利活動法人プロジェクト保津川
原田禎夫



海岸を埋め尽くすごみ（和歌山県 友ヶ島）



海岸を埋め尽くすごみ（京都府 由良海岸）



東京・荒川河口を埋め尽くすペットボトル

(撮影：NPO法人荒川クリーンエイドフォーラム)



愛知・庄内川河口を埋め尽くすペットボトル

(出典:NPO法人荒川クリーンエイドフォーラム)



淀川・中流部にも大量のペットボトルが漂着

保津川（桂川）について



京都府中部・丹波山地に源を発する桂川の亀岡市域での呼称。下流には嵐山があり、保津川下りや嵯峨野トロッキ列車など多くの観光客が訪れる。

- 国の天然記念物アユモドキなど、希少生物が多数生息。
- しかし、近年は水質悪化やプラスチックごみの増加など、環境問題が深刻化。





保津峡に漂着したごみ



川のごみの多くは生活ごみ

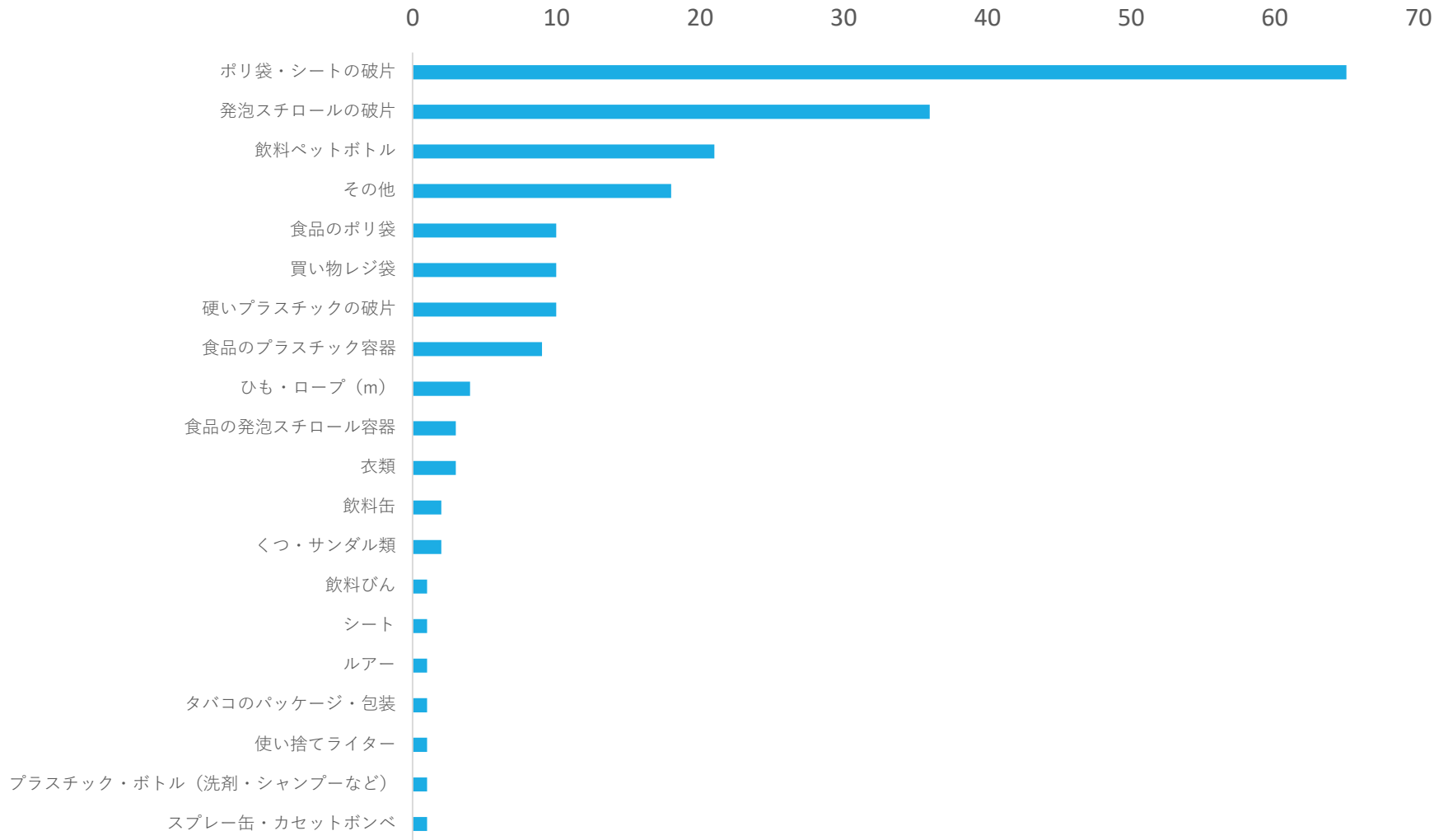


船頭さんによる危険な岩場での清掃活動



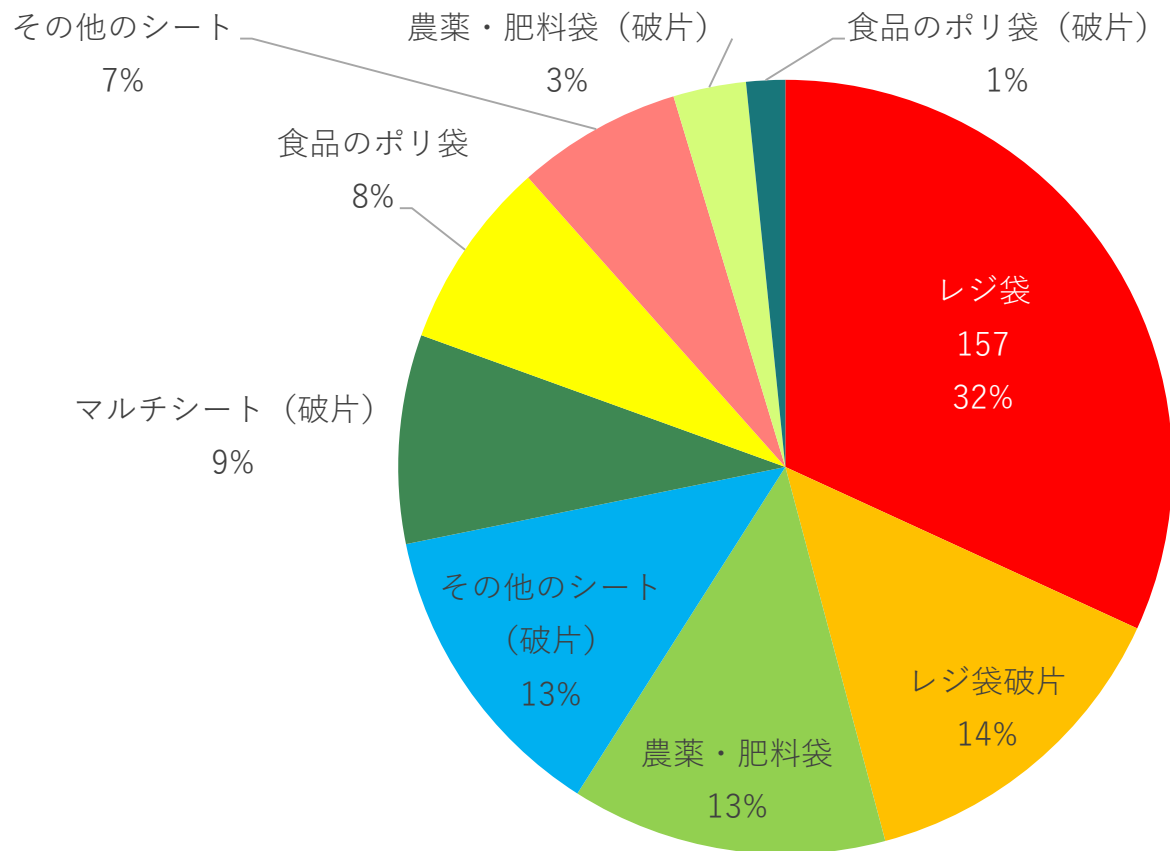
こども海ごみ探偵団の調査のようす

保津峡における漂着ごみの組成（上位20品目）



保津川のシート系ごみ

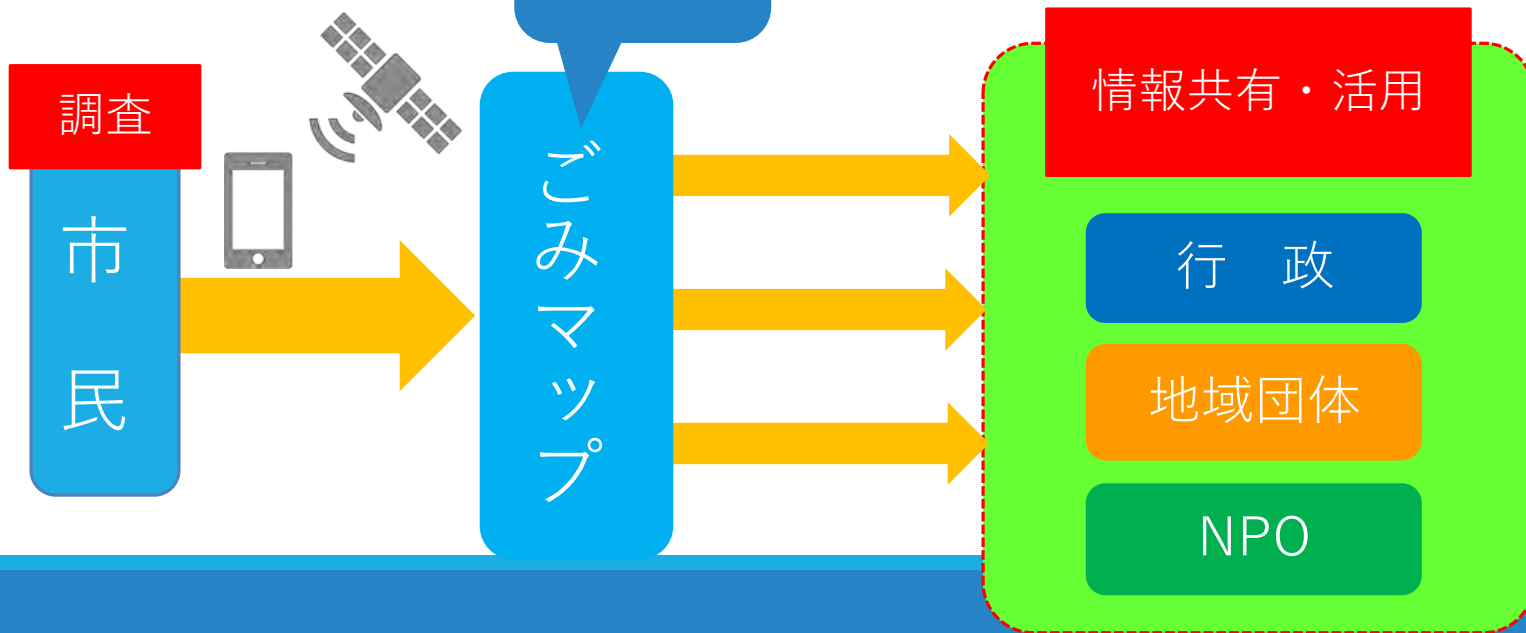
調査日 2018年12月17日・20日



N=493



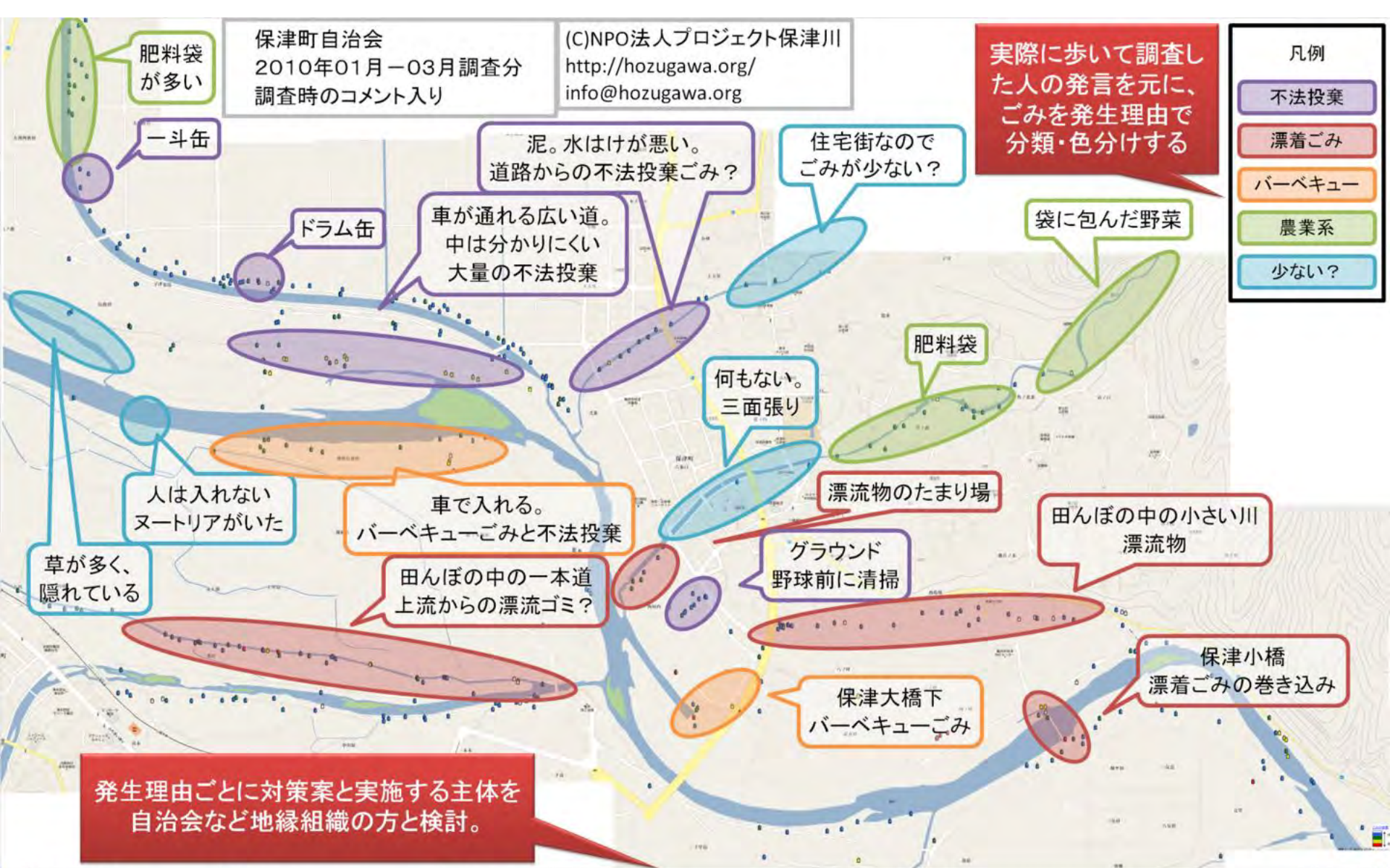
オンラインごみマップによるモニタリング



水辺のごみの評価指標～ごみの密度とレベル

水辺の散乱ゴミの指標評価手法(海岸版)

密度	ゴミ袋の数量 (袋)	回収した際のゴミのかさ容量の表現として	かさ容量 (e)
0	0	(自然物を除いて) 全くゴミがない	0
TT	1/10以下	500mLのペットボトルが1～2本分程度	1.25
T	1/10～1/5	500mLのペットボトルが3～4本分程度	2.5
1	1/5～1/3	2Lのペットボトルが2本分程度	5
2	1/3～1	2Lのペットボトルが4本分程度, 200～350mLの飲料缶が15本分程度	10
3	1	2Lのペットボトルが8本分程度, 200～350 mLの飲料が30本分程度, ポリタンクが1本分程度	20
4	2	2Lのペットボトルが16本分程度, ポリタンクが2本分程度	40
5	4	2Lのペットボトルが32本分程度, みかん箱が3個分程度	80
6	8	ドラム缶が1本分未満	160
7	16	ドラム缶が1.5本分未満	320
8	32	ドラム缶が3.0本分未満程度	640
9	64	1m ³ メートル程度	1280
10	128	軽トラで1台分程度	2560



ゴミの種類	概要	対策案	実施主体案
不法投棄	そこで捨てた	看板設置。監視カメラ設置。	
漂着ごみ	流れ着いた		
バーベキューごみ	遊びに来て捨てた		
農業系ごみ	仕事	農家の方に現状を知ってもらう？	
少なく見えるところ	無い？ 見えない？		



亀岡市篠町における河川ごみのモニタリング

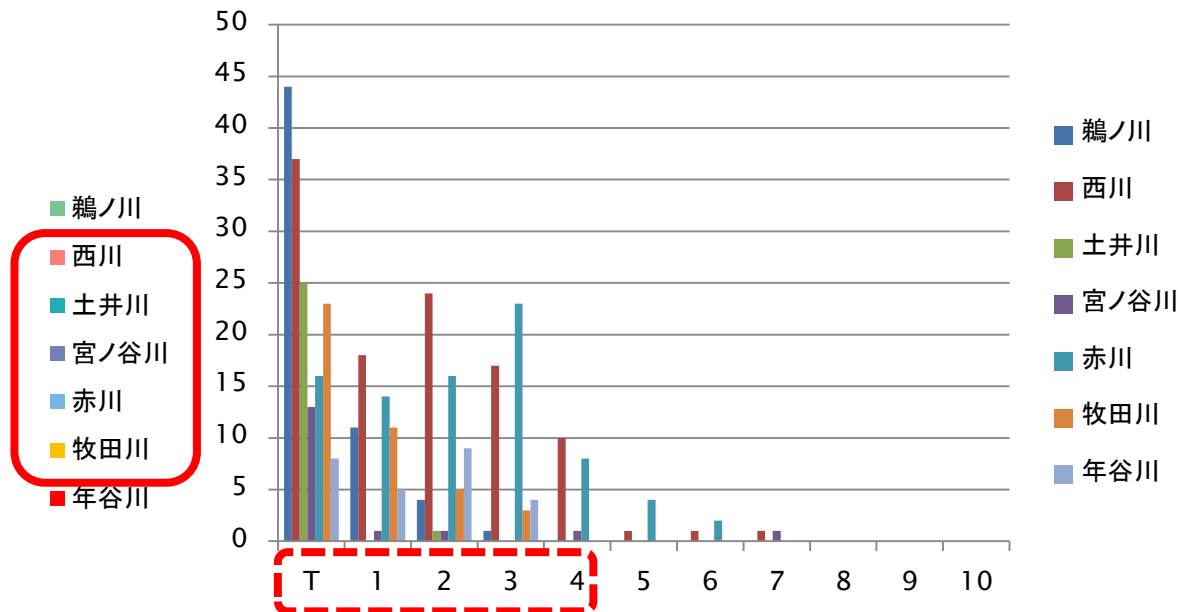
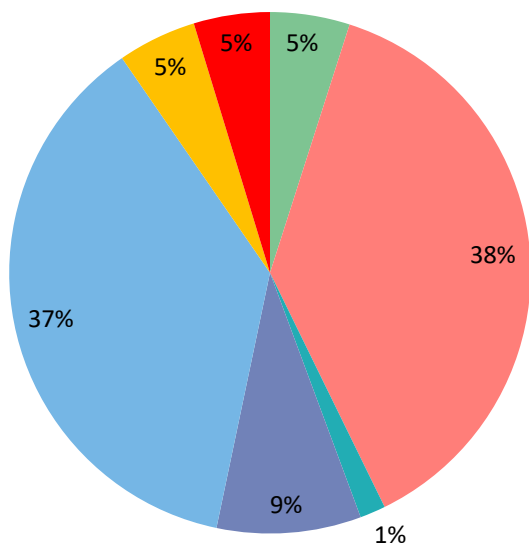




オンラインごみマップによるモニタリング

保津川支流域のごみ分布（京都府亀岡市篠町内）

河川別かさ容量



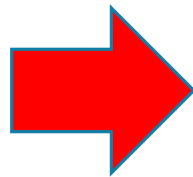
西川水系に、90.3%のごみが集中

- しかし、ほとんどの地点でごみの密度は低い
- 集中的に清掃活動を行うことで、大きな成果が期待できる

ごみマップ調査～その後



20L土嚢袋 × **190**袋
その他粗大ごみ多数
(2011.1)



20Lごみ袋 × **10**袋
粗大ごみなし
(2016.8)

プラスチックごみ削減に向けた取り組みを表明している自治体

自治体名	宣言名	時期	内容
神奈川県	かながわプラごみゼロ宣言	2018/09	市町村・企業・県民にプラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止・回収等と呼びかけ、2030年までにプラごみゼロを目指す
鎌倉市	かまくらプラごみゼロ宣言	2018/10	プラごみゼロ宣言をしている県と連携し、レジ袋やプラスチック製ストローの利用廃止等を推進
亀岡市	かめおかプラスチックごみゼロ宣言	2018/12	国内初のプラ製レジ袋使用禁止の条例化（2020年度）や2030年度までのプラごみの100%リサイクルの実現
大阪府 大阪市	おおさかプラスチックごみゼロ宣言	2019/01	公共施設での使い捨てプラスチックごみの削減、大阪エコバッグ運動の推進、新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの構築

亀岡市 レジ袋禁止へ



宣言文を持つ桂川孝裕市長（手前右から2人目）＝京都府亀岡市で13日午前10時13分

宣言には、レジ袋を禁止してエコバッグ持参率100%を目指す取り組みのほか、家庭から出るプラスチックごみの回収率100%達成も明示。市のイベント



プラスチック製レジ袋の使用禁止などを目指し、京都府亀岡市と市議会が13日、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をした。2020年度までに市内の小売店でのレジ袋の使用を禁止する条例を施行する方針。レジ袋を巡っては政府も小売店に有料化を義務づける方針を固めているが、市は廃止に向けてさらに踏み込む。現在、国内の自治体に同様の条例はないという。

【国本ようこ、写真も】



でリユース（再利用）食器を使用するなどし、「30年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目指す」としている。今後協議する使用禁止条例では、罰則を設けることも検討している。

市内にはスーパーやコンビニエンスストア、個人商店など計約760軒（14年度）の小売店があり、市はフランチャイズの店なども含め、すべてでレジ袋を禁止する構え。まず19年度中に全店舗のレジ袋を一律に有料化する予定で、既に協力呼びかけを始めている。桂川孝裕市長（55）は（レジ袋禁止で）全国に一石を投じたいと話した。宣言について市に助言してきた原

田禎夫・大阪商業大准教授（43）「公共経済学」は「海洋ごみは海外からの漂着のみならず、国内の内陸部からの流出も多い。宣言で亀岡市が先進都市となり、他地域にも広げるきっかけとなる」と意義を述べた。亀岡市は京都市の西隣に位置するベッドタウンで人口は約8万9000人。市はプラスチックごみの海洋汚染が近年、社会問題になっていることを受け、12年に内陸部の自治体では初めて「海ごみサミット」を開催した。

「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」 に至るまで

- 1990年代 保津川にプラスチックごみが増えはじめる
- 2004年 保津川遊船ハートクリーン活動開始
- 2006年 保津川開削400年、保津川クリーン作戦開催
- 2007年 保津川遊船エコグリーン委員会・NPO法人プロジェクト保津川設立
- 2009年 亀岡市第4次総合計画前期基本計画策定
 - ▶「漂着ごみの発生抑制」に取り組むことを内陸部の自治体で初めて明記
- 2012年 第12回海ごみサミット亀岡保津川会議開催
- 2013年 川と海つながり共創プロジェクト設立
- 2017年 第3回川ごみサミット亀岡保津川会議開催

海洋プラスチック汚染の解決には、規制・経済/市場・地域を基盤とした取り組みを総動員する必要がある

ー すばやい対応のための Social Licence の可能性

